

特集：平芝公園地下の2本のトンネルと地質を探る（前編）

え！公園の地下に2本のトンネルが？

最近全国で洪水や地震が話題となっています。その中で特に地震に関係する地質について、タモリさん（勿論別人）、住人Hさん、地質専門家Nさんの三人が平芝公園周辺を巡り、平芝公園周辺の地質について意見を交わしました。プラタモリ風にお伝えします。



H「本日は、ダンサー（段差）のタモリさんにお越しいただき、私平芝町住人のHが平芝公園周辺をご案内します。本日はよろしくお願いたします。」
タ「最初は平芝公園南端にある展望場所です。」



H「ここは豊田市の市街地を一望できる絶好の場所ですね。」
タ「南手前に見えるのが豊田市の中心市街地です。その奥、ビル間の高台に見えるのが、トヨタ自動車の本社地区です。」
H「左手前に見えるのは一級河川矢作川で、白い大きな橋が豊田大橋、その隣に名古屋グランパスのホームである豊田スタジアムがあります。」
タ「その左側奥に六所山・炮烙山が見えます。六所山の麓には徳川家の始祖である松平家がありました。現在も家康公産湯の井戸や松平東照宮が残っています。」
H「ここからは見えませんが、北側には標高629mの猿投山があります。」
タ「西側も木が邪魔をして見えませんが、この周辺の段丘の最高位になる三好面があります。」
H「こうやって眺めると、豊田市の中心は盆地の中にあるわけですね。」



タ「梅の木があります。」
H「つまり合計すると300本以上の梅の木があるんですね。（本数には諸説あります）」
タ「こちらが梅林公園芝生広場です。2月ごろには梅の花が満開で見ごろになります。」
H「梅の開花時期には多くの見物客が来られるんですか。」

H「コロナ禍で3年間中止されていましたが、今年2月、4年ぶりに梅まつり実行委員会主催（平芝自治区）で第20回梅まつりを開催し、多くの見物客が訪れました。」
H「公園に隣接する安長寺や旧豊田税務署（旧裁判所）跡地に約260台分の駐車場を確保しましたが、時間帯によっては満車になるほどでした。」
H「入場者のカウントはしていませんので、正確な数字はわかりませんが、期間中は1日で約2,000人の来場者があったと推定されます。」
H「また6月3日には梅の木の収穫祭が行なわれました。近隣のひまわり学園等7施設の方々を招待し、平芝公園の植栽管理をしてきている平芝シルバーさん達と一緒に梅の収穫を行いました。」
H「話をしながらトンネル上へ戻る。」
H「この先の愛環トンネルは、公園の北側から安長寺駐車場の下を横切り、坑口になります。」
H「枝下用水トンネルも同様に公園の北側から安長寺駐車場の下を横切り、道路の下を通って安長寺山門の横が梅坪方の坑口です。」
H「立派な山門ですね。」



「ところで今日のお題は何でしょうか？」
H「なぜ、平芝公園の地下に長さ400mのトンネルが2本あるのか？」
タ「え！この公園の下に2本もトンネルがあるの？」
H「はい、愛知環状鉄道のトンネルと枝下用水のトンネルの2本です。」
H「普段は誰も入れませんが、今日は特別に愛知環状鉄道さんの許可をいただいているので、トンネル坑口の真上に行ってみることにしましょう。」

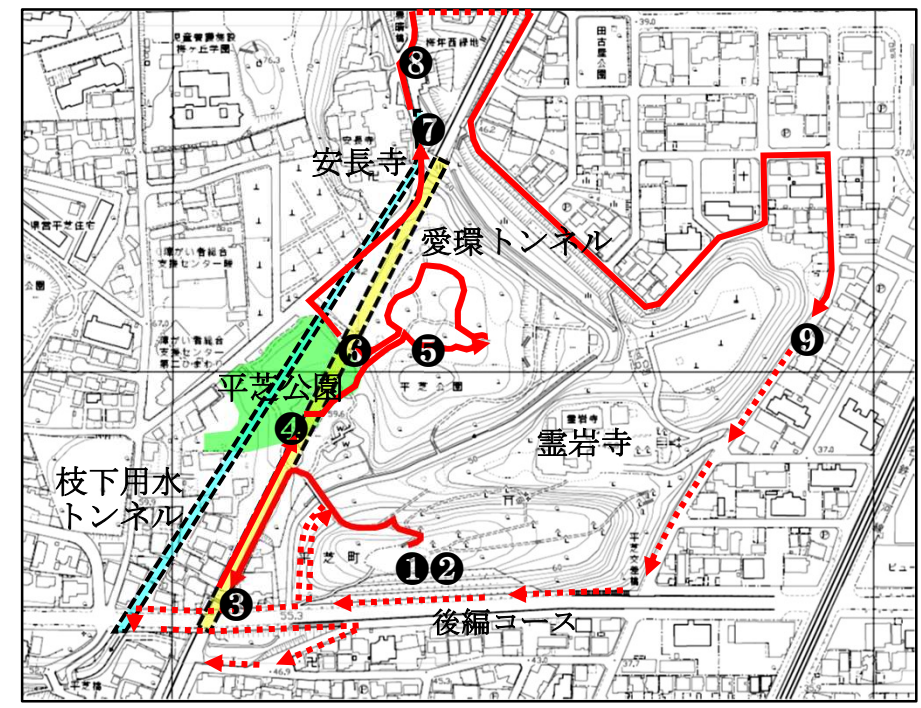


（公園内を120mほど西へ移動）
H「ここが豊田方のトンネル坑口の真上です。南側、左にカーブした先が新豊田駅ですが、ビルの陰で見えませんが。」
タ「随分新豊田駅に近いんですね。トンネルを出たところがすぐ高架橋で、線路は単線ですが複線の幅でできていますね。」
H「新豊田駅からここまでは、徒歩20分ほどです。計画当初は複線化を予定していましたが、現在は単線で運行しています。」
H「今は愛知環状鉄道という名称で第二セクタ方式で運営しています。ただ鉄道計画時と建設時は国鉄岡多線（岡崎―豊田―瀬戸）と国鉄瀬戸線（瀬戸―高蔵寺―枇杷島）として事業が始められました。岡崎から順次工事を行い、新豊田まで開通したのが昭和51年4月16日です。その後国鉄民営化などもあり、新豊田から先、高蔵寺まで開通したのが昭和63年1月31日です。ただトンネル自体は鉄道建設公団の発注で昭和48年7月の完成ですから、結構長い間使われずにいたようです。そのため地元の小中学生たちが探検と称して、無断でトンネル内に

「さすがお目が高いですね。雲晴山安長寺さんの山門は天保3年（1832）建造で、国の登録有形文化財に登録されています。」
H「さてここからは、地質の専門家のNさんにも同行いただきます。」
H「Nです。地質会社勤務で、大阪出身ですが、豊田市地域で長年地質調査を行なってきました。現在は西日本担当の役員をしております。」
H「今は平芝自治区内に在住です。案内者のHさんとは比較的最近知り合いになりましたが、昔からいろいろな人たちと思わぬところで接点があります。」
H「さて、この2本のトンネルはどんな地盤に掘ったかお判りになりますか。」
H「地形的には盆地の中の段丘の縁にある高台の公園という説明はありましたが、トンネル直上の芝生と舗装された駐車場と道路を歩いただけなので分かりませんでした。何かヒントをもらえますか？」
H「そうですね、では今からヒントになる場所にご案内します。」
H「（安長寺から梅坪の住宅地に降りて、霊岩寺に向かう）」
H「結構降りてきましたね。この辺りの標高は中心市街地と同じくらいですか？」
H「はいその通りで、30cm程度の高低差です。」
H「公園の芝生広場からは23mほど高低差がありますが、お地蔵

「あ！大きな岩の上にお地蔵

「あ！大きな岩の上にお地蔵



※取材には愛知環状鉄道と枝下用水の土地改良区の皆さんに対応いただき、貴重な資料も提供いただきました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。



「それが反対の北側を見てください。トンネルの上には家は立っていません。」
H「その先に梅林公園芝生広場がありますので、そこまで歩きましょう。」
H「梅林公園には梅の木は何本あるんですか？」
H「この芝生広場周辺で約150本ありますが、ここから少し上がった公園の東側を展望できるところにも約150本

入っていたという話も聞きました。」
H「すぐ南に見える道路は？」
H「豊田市が管理している内環状道路です。道路ができるまでは道路南側の住宅2列分までが公園斜面の山林でした。」
H「道路工事はトンネルができてから行なわれました。」
H「愛知環状鉄道の50mほど西側に水路が見えますが、あの水路も公園の下をトンネルで抜けています。」
H「お題にあった2本目のトンネルですね。あれは川ですか？」
H「枝下用水という農業用水です。現在は、豊田土地改良区さんが運営・管理をされています。」
H「枝下用水の工事は明治16年に着工され、幹線と東用水の通水が明治23年、中用水の通水が明治25年、西用水の通水が明治27年に行われました。現在の総延長は約70km、約1,552haの土地を灌漑しています。」
H「え！明治時代に用水のトンネルを掘ったんですか？」
H「いいえ、明治時代は開削（地表から掘り下げる工法）で段丘の縁を掘って用水を作りました。トンネルにしたのは、昭和の時代になってからです。」
H「それは反対の北側を見てください。トンネルの上には家は立っていません。」

